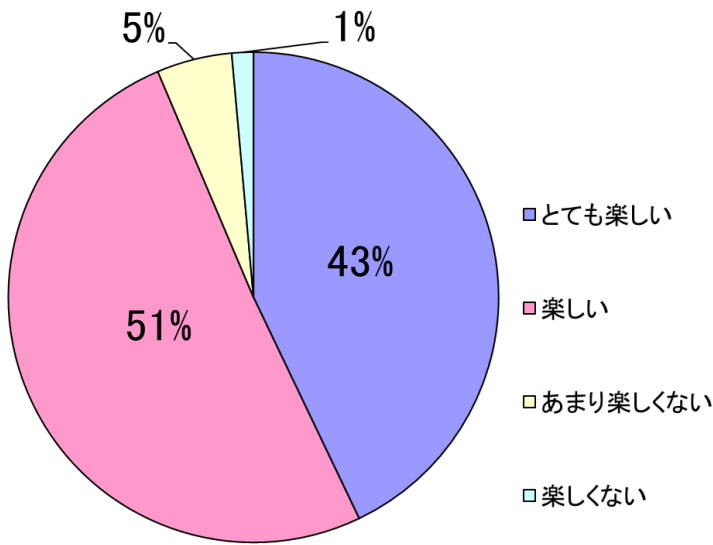


後期
2月実施

1. 学校生活は楽しいですか。



1. 学校生活は楽しいですか

【令和7年度】

とても楽しい	43%	94%	3% up
楽しい	51%		

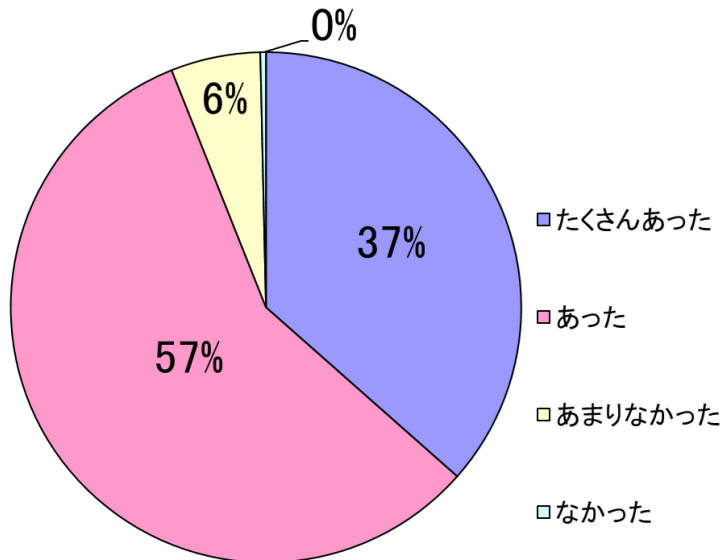
【令和6年度】

楽しい	43%	91%
どちらかと言えば楽しい	48%	

「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童の合計は94%で、昨年度（後期）より3%上昇し、引き続き9割を超える児童が「学校は楽しい」と感じていることは、大変喜ばしいことである。

学習で問題を解くことができた時や、疑問に思っていたことを解決できた時、挑戦していたことができるようになった時、給食を食べている時、遊んでいる時など、学校生活の中で「楽しい」と感じる場面は多岐にわたると思われる。その中でも友達や先生との関わりの中で「楽しい」と感じてほしい。子供たちが「学校は友達や先生と一緒に楽しいことができる場所」と思えるように、今後も、成長を実感できる授業づくりや学級・学年の雰囲気づくりに努めていく。

2. クラスの当番・係活動・委員会・実行委員などの活動の中で、自分の役割に進んで取り組むことができたものがありましたか。



2. クラスの当番・係活動・実行委員などの活動の中で、自分の役割に進んで取り組むことができたものがありましたか

【令和7年度】

たくさんあった	37%	94%	1% up
あった	57%		

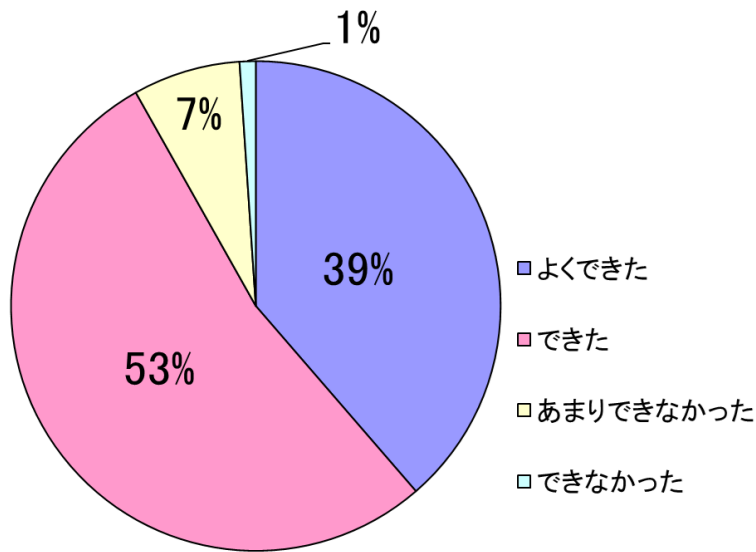
【令和6年度】

たくさんあった	39%	93%
あった	54%	

「たくさんあった」「あった」と回答した児童の合計は94%で、昨年度より1%増加した。9割を超える児童が、各活動に進んで取り組んでいることがわかる。

これらの活動は、内容が決まっているものもあれば、自分たちで考え、計画・運営していくものもある。高学年においては後者の活動が多くなり、より自主性や創造性を求められることになる。このような活動や経験を通して、児童が自ら考え、行動する力を育てていきたい。そのためには、各学級・学年、委員会活動等における活動内容や方法、提示の仕方等を引き続き工夫していく必要がある。

3. 自分や周りの人たちの健康に気を付けて生活することができましたか。



3. 自分や周りの人たちの健康に気を付けて生活することができましたか

【令和7年度】

よくできた 39%
できた 53% } 92%

【令和6年度】

よくできた 41%
できた 51% } 92%

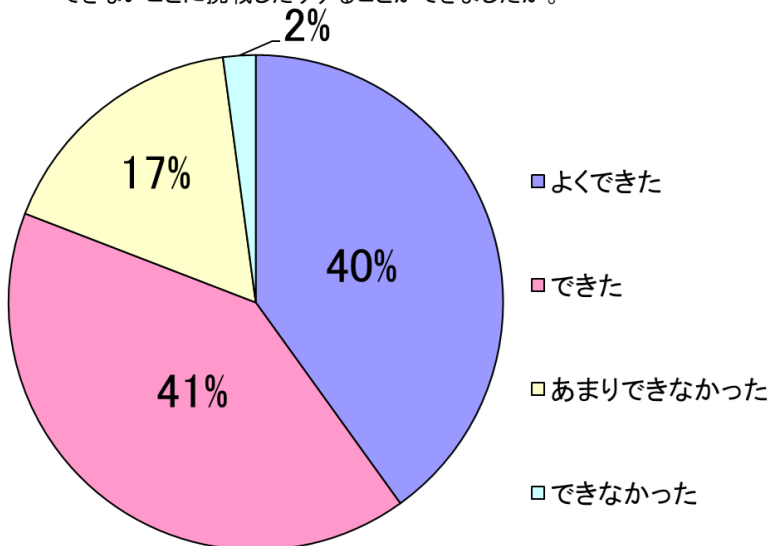
stay

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は92%であり、前年度と同様の割合となった。引き続き9割を超える児童が、自分や周りの人達の健康に気を付けて生活することができたと感じていることは、大変望ましい状況である。

内訳を見ると、「よくできた」は41%から39%へとやや減少した一方で、「できた」は51%から53%へと増加している。日常生活の中で基本的な生活習慣や感染症予防への意識を継続してもつことができている児童が多いことがうかがえる。

今後も児童一人一人が自他の健康を大切にしながら生活できるよう、日常的な声掛けや指導を継続していくとともに、養護教諭や関係職員と連携しながら、健康に関する意識のさらなる向上を図っていく必要がある。

4. 体育の学習や休み時間、放課後には、体をいっぱい動かしたり、できないことに挑戦したりすることができましたか。



4. 体育の学習や休み時間、放課後には、体をいっぱい動かしたり、できないことに挑戦したりすることができましたか

【令和7年度】

よくできた 40%
できた 41% } 81%

【令和6年度】

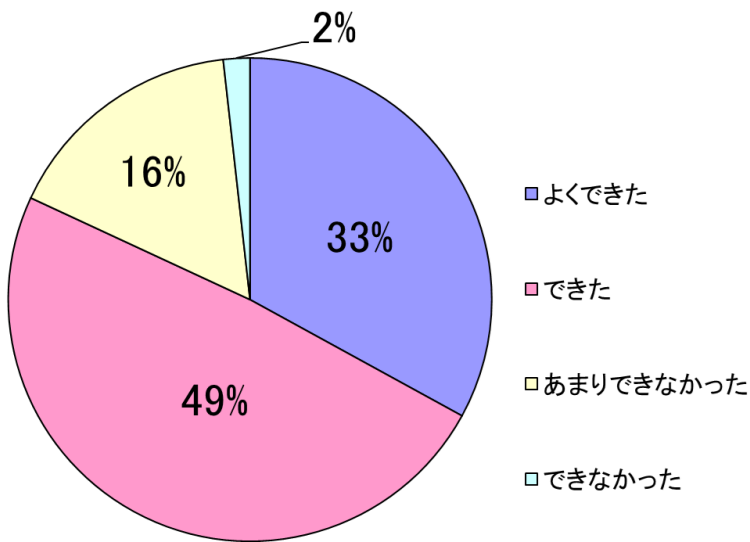
よくできた 48%
できた 39% } 87%

6% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は81%で、昨年度より6%減少した。減少したものの、中休みの校庭を見てみると、とても多くの児童が元気に運動遊びを楽しんでいる。また、体育の授業においても、思い切り走ったり、ボールを投げたりしている姿が見られる。朝の校庭開放でも、多くの児童が短い時間、いっぱいまで遊ぶ姿が見られる。児童がより運動に親しみ、体を動かすことの楽しさに触れることができるように、今後も校庭使用の工夫等について検討していく。

「できないことに挑戦する」という点においても、体育の授業においては児童が個々にめあてを設定し、それを達成するために試行錯誤しながら学習を進める姿がたくさん見られている。

5. 進んで挨拶することができましたか。



5. 進んで挨拶することができましたか

【令和7年度】

よくできた 33%
できた 49% } 82%

【令和6年度】

よくできた 36%
できた 48% } 84%

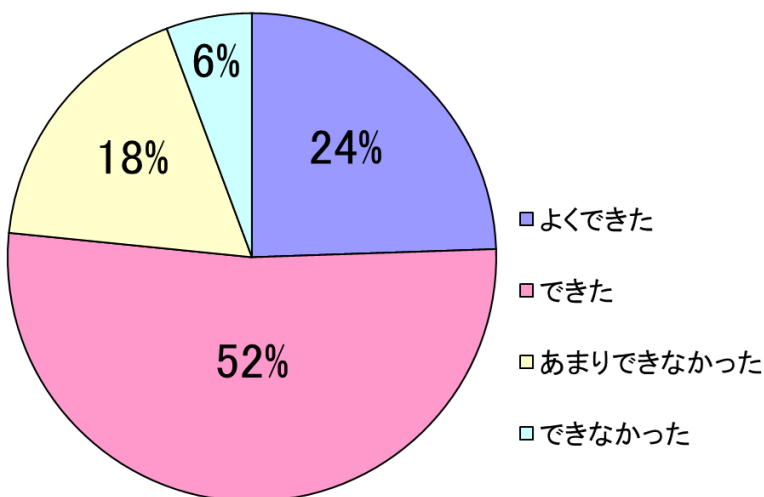
2% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は82%で、昨年度より2%減少した。年度を比較すると、減少しているものの、10月実施の78%に比べると、4%増加しているといえる。

昨年度は、挨拶運動に力を入れ、取り組む様子が見られた。今年度は、そのような活動を行わなかったものの、ある程度数値に表れていることから、あいさつすることが定着しているものと考えられる。

防犯等の観点から、他人とのつながりが希薄になりがちなか中と考えられるなかで、多くの児童が「できた」と回答している。柿生の地域の安心感によるものが大きいと考えられる。引き続き、実態をもとに子供と相談しながら、持ちの良い挨拶ができるようにしていきたいと考える。

6. 困ったり悩んだりすることがある場合は、先生や周りの友達に相談することができましたか。



6. 困ったり悩んだりすることがある場合は、先生や周りの友達に相談することができましたか。

【令和7年度】

よくできた 24%
できた 52% } 76%

【令和6年度】

よくできた 27%
できた 50% } 77%

1% down

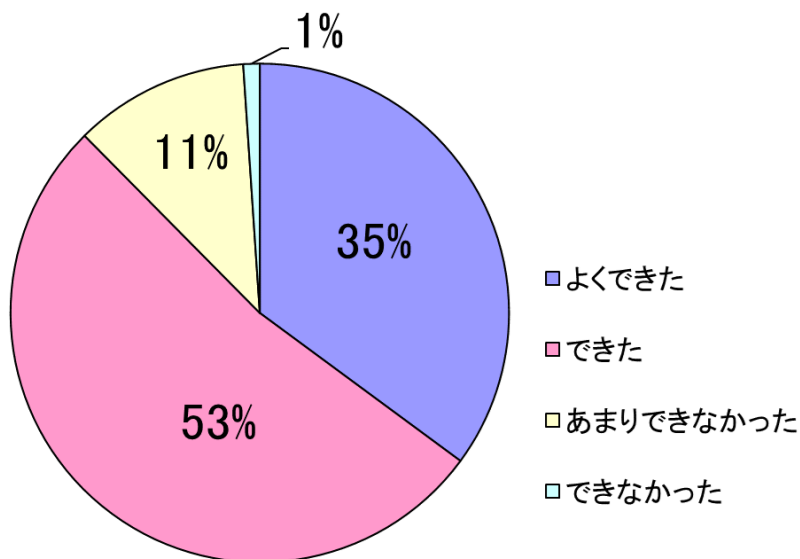
「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は76%で、昨年度とほぼ同じ割合となった。他の項目と比較すると若干低い結果となっている。

学年が上がるにつれ、児童が悩みを抱えることが増えていく傾向がある。それと同時に、大人に相談しづらいつ感じる児童も増える傾向もある。

児童が悩みを抱えた際、「相談してもいいんだ」と思える関係性を築くためには、教職員が日頃から児童の様子に気を配り、ちょっとした変化にも気付いて声をかける必要がある。何気ない会話の中でも児童がSOSを出している可能性もある。何かあった時に相談しやすい関係性であることが最重要である。

学級担任だけでなく、全教職員が児童にとって「相談できる相手」となるために、今後も児童との関係づくりを工夫していく。

7. 学校のルールを守り、周りの人のことを考えて行動することができましたか。



7. 学校のルールを守り、周りの人のことを考えて行動することができましたか

【令和7年度】

よくできた 35% } 88%
 できた 53% } 4% down

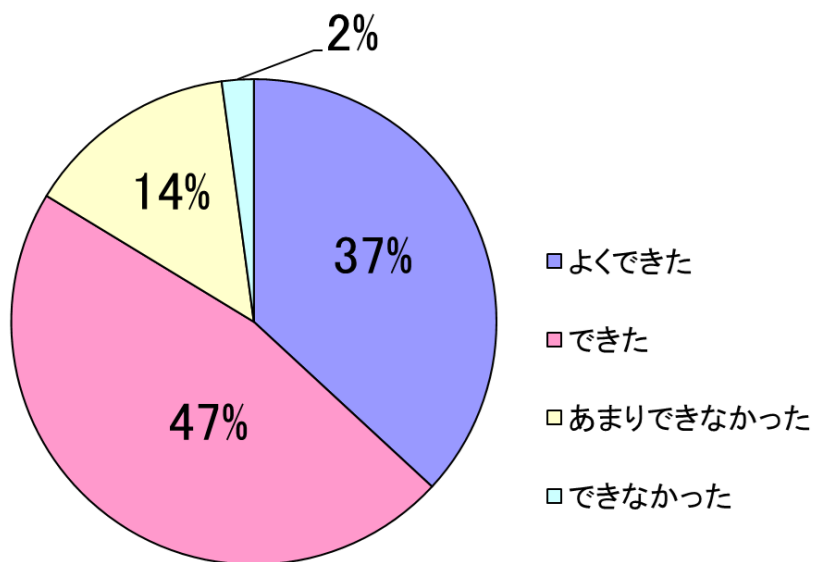
【令和6年度】

よくできた 37% } 92%
 できた 55% }

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は88%で、昨年度より4%減少した。約9割の児童が「周りの人のことを考えて行動することができた」と感じていることから、他者意識が育っていると評価できるものの、自信をもって学校のルールを順守したり周囲に配慮したりしていると自覚しづらい現状になっている。

「柿生小の約束」としてさまざまな場面におけるルールを決め、児童に周知しているが、児童の実態や社会的背景の変化などに応じて、約束事を見直している。児童に対して、自他共に気持ちよく過ごすことができるように約束の意義や守ることの利点などについて伝え、自ら考える機会を設けるように努めていく。

8. 困っている友達や、悩んでいる友達が周りには、話を聞いてあげたり、周りの大人に伝えたりすることができましたか。



8. 困っている友達や、悩んでいる友達が周りには、話を聞いてあげたり、周りの大人に伝えたりすることができましたか。

【令和7年度】

よくできた 37% } 84%
 できた 47% } 5% down

【令和6年度】

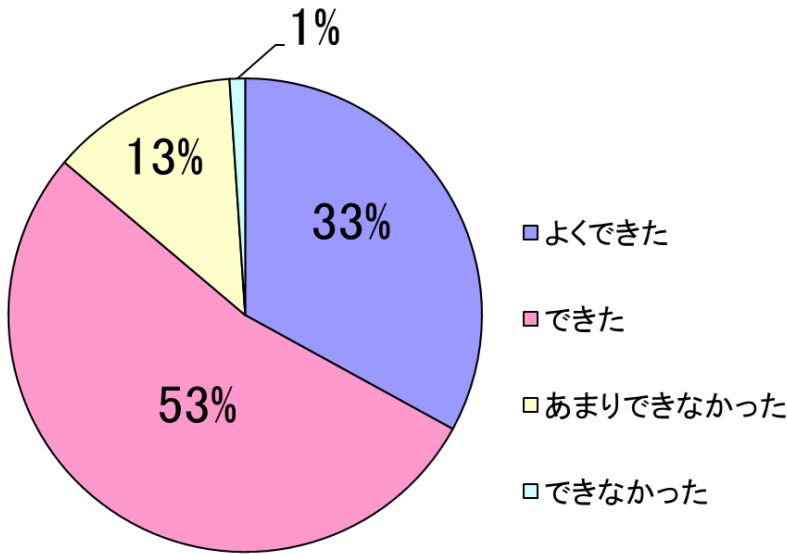
よくできた 39% } 89%
 できた 50% }

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は84%で、昨年度より5%減少した。

減少している要因として、高学年児童にとって、困ったり悩んだりしている友達が近くにいたときに、具体的な行動をとることが難しく感じられるようになっている実態が考えられる。友達に寄り添い、自分のできることをしようとする行動力を育てていきたいと考える。

そのためには、自分も友達も大切に、誰かが困っている時には手を差し伸べることができる子どもを育てていく必要がある。具体的には、道徳科の学習や共生＊共育プログラムの実践、係活動や行事の取り組みの工夫・改善を図ることで、協力することや助け合うことの大切さを感じることができ子どもを目指していきたい。

9. 学習では、自分の課題をもち、最後まであきらめずに取り組んだり、苦手なことやできないことにも挑戦したりすることができましたか。



9. 学習では、自分の目標をもち、最後まであきらめずに取り組んだり、苦手なことやできないことにも挑戦したりすることができましたか

【令和7年度】

よくできた	33%	} 88%	←
できた	53%		
			3% up

【令和6年度】

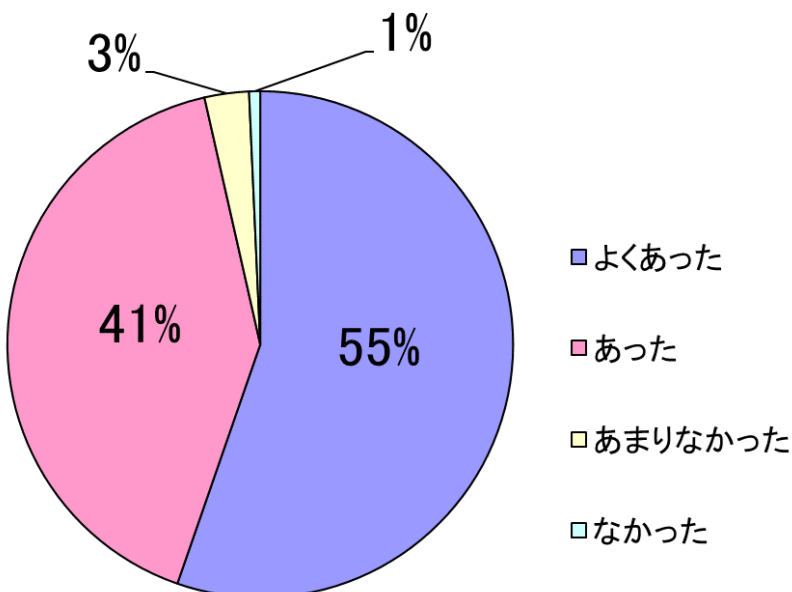
よくできた	36%	} 85%
できた	49%	

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は86%で、昨年度より1%増加した。

校内研究や日々の授業実践を通して、児童が課題をもち、その解決に向けて試行錯誤しながら学習を進め、その中で自分の考えを深めていくことができるような授業計画を進めてきた。9割近くの児童が「諦めず最後まで取り組むことができた」と感じていることは、日々の研究・研修に一定の効果があったと評価することができる。

今後も、課題解決学習をより充実させ、自分の課題を持って主体的に学習に向かうことができるように、授業力向上チームを中心として日々の授業改善を図ることができるように研究・研修を推進していく。

10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか。



10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか

【令和7年度】

よくあった	55%	} 96%	←
時々あった	41%		
			2% up

【令和6年度】

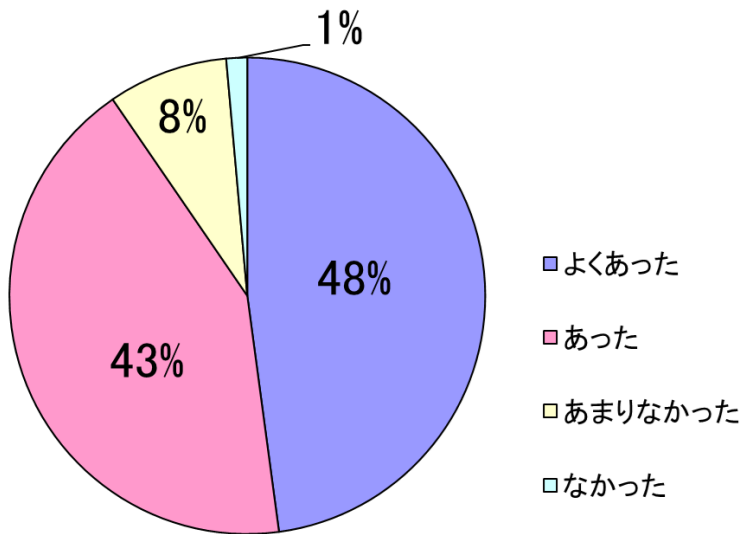
よくあった	54%	} 94%
時々あった	40%	

「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は96%で、昨年度より2%増加した。9割強の児童が「わかった」「できた」と感じながら学習に取り組むことができていることは、教職員の授業改善に一定の効果があったと評価することができる。

学校目標：「自己肯定感を高め、未来を切り拓く子の育成」に向けて、児童が課題をもち、解決に向けて試行錯誤することがまず大切である。その課題を解決した時に「わかった」「できた」と感じ、達成感や満足感を得ることが、学校目標達成につながる。

また、学習に困り感をもつ児童が多少いることは真摯に受け止め、来年度の課題とし、日々の授業改善や体験活動の充実などに尽力していく。

11. 学校生活の中で、友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことはありましたか。



11. 学校生活の中で、友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことはありましたか。

【令和7年度】

よくあった	48%	91%	←
時々あった	43%		

【令和6年度】

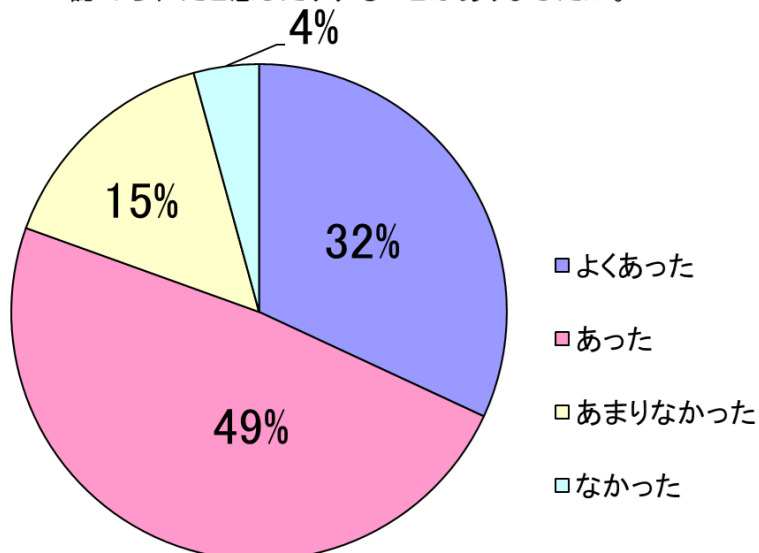
よくあった	48%	93%	←
時々あった	45%		

「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は92%で、昨年度より2%減少したものの、9割以上の児童が肯定的な回答をしている。

日々の生活の中で、友達のがんばりや成長に気づき、それを認めて称賛を送ることができたと感じている児童が9割以上もいることはとても喜ばしいことである。

これを継続していくためには、まず教職員が児童に対して常に肯定的な言葉がけを心がけることが大切である。児童の少しの変化や成長に対して「がんばったね」などと声をかけることで、児童が前向きな気持ちになり、児童相互でもそのような雰囲気となることを期待したい。

12. 学校生活の中で、先生や友達から「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言われたり、認められたと感じたりすることはありましたか。



12. 学校生活の中で、先生や友達から「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言われたり、認められたと感じたりすることはありましたか

【令和7年度】

よくあった	32%	81%	←
時々あった	49%		

【令和6年度】

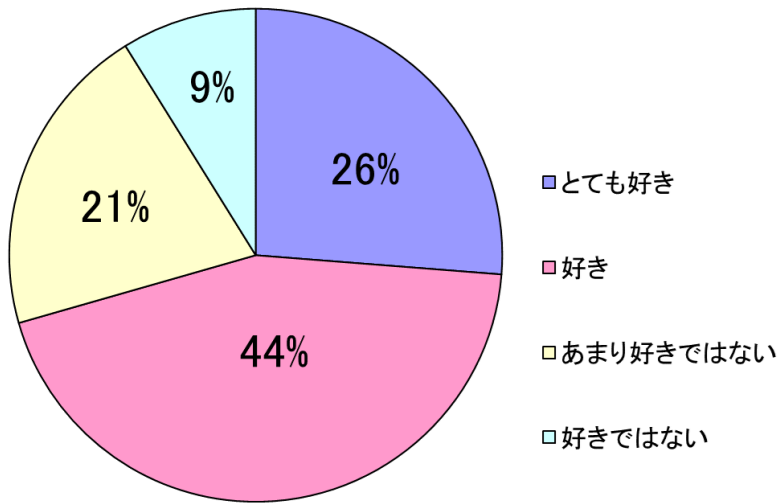
よくあった	34%	83%	←
時々あった	49%		

「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は81%で、昨年度より2%減少した。

減少した要因として、『友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことはありましたか』という質問に対して「よくあった」「時々あった」と回答した児童の割合が2%減少していることが考えられる。

友達のがんばりを認めることも大切であるが、自分自身にも目を向け、努力したことやできるようになったことに対して前向きに捉えることができるように、教職員がより一層児童の成長に目を向け、肯定的な言葉がけをしていくように努めていく。

13. あなたは、自分のことが好きですか。



13. あなたは、自分のことが好きですか。

【令和7年度】

とても好き	26%	70%	stay
好き	44%		

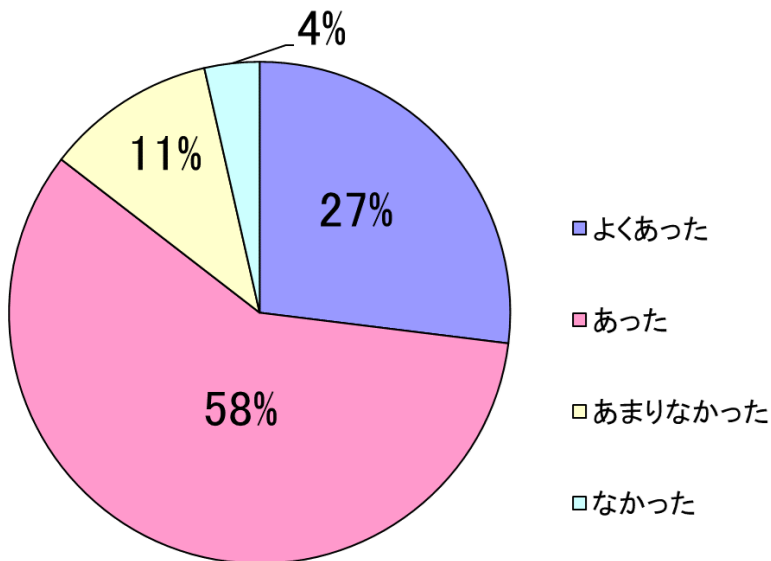
【令和6年度】

とても好き	23%	70%
好き	47%	

「とても好き」「好き」と回答した児童の合計は70%で、数値としては、昨年度と同じ割合である。「先生や友達から褒められた、認められたと感じたことがあったか」の設問に対して、8割の児童が「よくあった」「時々あった」と感じているのに、「自分のことが好きか」で「とても好き」「好き」と感じている児童が7割に留まっていることから、他から褒められるだけでは「自分のことが好き」つまり自己肯定感は必ずしも高まらないことが読み取れる。

高学年においては、自分の努力や成長を褒められることに加えて、自身の達成感が伴うことで自己肯定感が高まるのではないかと推測できる。自らの力で課題を解決し、成長できたと実感することが必要である。また、30%の児童が「あまり好きではない」「好きではない」と回答していることにも着目し、今後の改善を図るために、日々の授業実践の工夫や、児童が思いを実現するために自ら方法を考えたり実践したりすることへの支援の仕方について検討していく必要がある。

14. 学校生活の中で、自分が成長していると感じたり、みんなの役に立っていると感じたりすることがありましたか。



14. 学校生活の中で、自分が成長していると感じたり、みんなの役に立っていると感じたりすることがありましたか

【令和7年度】

よくあった	27%	85%	stay
時々あった	58%		

【令和6年度】

よくあった	30%	85%
時々あった	55%	

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は85%で、昨年度と同じ割合となった。

前項と同じく、自分の成長を感じるためには、自分の力で課題を解決したり、壁を乗り越えたりしたという実感が伴うことが必要である。学習・生活両面において、児童が思いを実現するために、自分で解決方法を考えたり、試行錯誤したりすることができるように、教職員はすべてを準備する存在ではなく、時には少し距離を置いて見守ることも大切である。タイミングや内容をしっかりと見図り、適切なタイミングや内容で指導・支援することができるように、活動内容を精選したり、児童の様子に注視したりする必要がある。